



いとう  
伊藤 おさむの市民ニュース

# ホット・ホット・越谷

発行：伊藤おさむ後援会

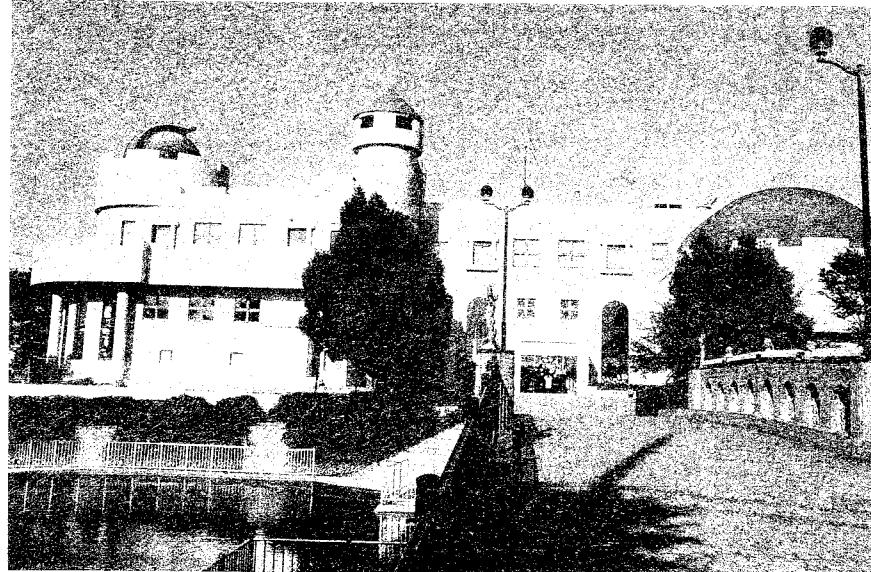
〒343-0841 越谷市蒲生東町8番37号

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL http://park19.wakwak.com/~osamucha/

平成16年10月1日発行 No.11

TEL 048-986-9553 FAX 048-989-2397

児童館「コスモス」は、児童に健全な遊びや各種事業を通して子供たちの健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童福祉法に基づく児童厚生施設で、遊びを通して科学に対する興味、関心を高め、創造性豊かな児童を育むことを願い、昭和62年5月に開設されました。



児童館コスモス

この施設には、1階に「遊びと創造の階」と呼ばれる、おもちゃ図書室、遊戯室、幼稚室、工作室があり、2階には「天文・宇宙の階」と呼ばれる、天体・宇宙展示コーナー、プラネタリウムがあります。更に、3階には「科学・体験の階」と呼ばれる、科学体験コーナー、科学実験室、天体観測室等があり、普段から多くの児童に利用されています。

開館時間は9:00～17:00まで 休館日は毎週月曜日(ただし、5月5日の子供の日は除く)  
入館・施設の利用は無料(プラネタリウムは小学生以上1人1回100円) Tel978-1515

## 新しい風

自己決定したことであつた。  
「住民投票」の結果は、住民自身が  
いずれにしても自分たちの町の  
将来は、自分たちで決めるとい  
う

こだわりとは別に、ただ大きくな  
ればいいというのではなく、身の  
市名に変わることは面白くないと  
いうことになる。また、その様な  
事へ反発があったと聞く。  
確かに、何十年も慣れ親しんでき  
た市名がそれほど魅力的でもない  
の一旦を伺うことは出来る。その  
一つに、これまでの市名が変わる  
ことへの反発があつたと聞く。

さて、その理由だが、住民心理  
を聞いたが、住民の気持ちを  
動かすことが出来なかつたようだ。  
も無かつた。各地域で「合併協議  
会」を開催し、住民説明も重ねて  
きたと聞いたが、住民の気持ちを  
動かすことが出来なかつたようだ。  
確かに、何十年も慣れ親しんでき  
た市名がそれほど魅力的でもない  
の一旦を伺うことは出来る。その  
一つに、これまでの市名が変わる  
ことへの反発があつたと聞く。

この二～三ヶ月の間に、東部地

# 越谷市議会議員伊藤おさむの議会報告！ 行政調査報告！9月定例市議会報告！

私の所属する会派「自由民主党・市民クラブ」は、7月20日～22日の3日間にわたり行政調査を行いましたので、今回はその概要を報告します。

内容は、福島県郡山市の「小学校統合による小・中一貫した教育の推進事業」についてと、青森県八戸市の「中心市街地の活性化事業」についてです。

先ず、郡山市の湖南地区では、近年の少子高齢化により過疎化が急激に進み、地区にある5つの小学校では、学年の違う子供たちが1つの教室で1人の先生の授業を受ける複式学級の割合が多くなっており、今後さらに少子化が進むことでこの複式学級が増えることが予想されます。この様な小学校の複式化を回避するために、地域住民による「湖南地区小学校の統合を促進する会」を立ち上げ、積極的な活動を行った結果、5つの小学校を統合し既存の湖南中学校の隣に、新に湖南小学校を併設させ、小・中学校を一体的に整備することにしました。

郡山市における今日の小・中学校の教育をめぐる状況をみると、小・中一貫教育は時代のニーズに応える新しい学校づくりとして大きな脚光を浴びています。

次に、八戸市の中心市街地では、長引く不況の影響や市内外の郊外商業集積地との競争激化により、通行量もピーク時の半分以下となり、老舗といわれる書店や靴屋などの商店が相次いで閉店もしくは撤退しています。この様なことで、既存商店街は空き店舗の発生や駐車場問題等の課題を抱え厳しい状況に置かれていますが、各種イベント事業を中心に地元地域と交流を深めながら、商店街活性化に向けた取り組みを進めています。例えば、商業振興策として、平成14年度に9つの事業を計画する団体に補助金を交付、平成15年度には7つの事業計画に補助金を交付、平成16年度にも7つの事業計画に補助金交付を予定しています。また、行政側としては、補助金の交付のみならず、多様な主体の参加と連携により、中心市街地活性化に向けあらゆる模索を行っています。

組合施行による中心市街地活性化事業が頓挫し、空き店舗の発生や駐車場を巡る問題は、我が越谷市の現況を省みる思いがし、人事ならぬ行政調査でした。

次に、9月定例市議会が9月1日～9月28日までの28日間にわたり開催され、市長提出議案38件が原案を持って可決、認定されました。

可決された主な議案は、○教育委員会委員に山口文衛氏○南越谷駅南口駅前広場改修工事(平成17年3月25日まで)○リサイクルプラザ工場棟整備工事(平成18年3月24日まで)○荻島公民館建設工事(平成18年2月15日まで)、また、決算特別委員会が設置され、付託された13件全ての議案が認定されました。

### 市政報告会のご案内

- 1・日時 11月20日(土)  
6時30分～9時まで
- 1・場所 越谷サンシティー  
4階 桐の間
- 1・会費 ¥3,000円
- 1・連絡先 越谷市蒲生東町8-37  
048-986-9553まで



左から樋村議長・伊藤・江原議員・浅井議員

## 地域を知るシリーズ No.9

### 彩の国「まごころ国体」！

#### 涙と感動を刻んだ蒲生地区！！

前回紹介した「まごころ国体」の夏季大会が、1月11日～14日の4日間にわたり開催され、越谷市内各地区では、全国からの女子サッカーチームを受け入れる為、工夫を凝らした様な態勢づくりが準備されました。

とりわけ蒲生地区では、民泊協力会の総務班・調理班・歓迎班・応援班と、蒲生地区センター・蒲生交流館の職員がそのネットワークを活かし、まさに涙と感動の民泊を成功させました。今回は、その中でもひときわ苦労が目立っていた調理班の班長さんにお話を伺ってまいりました。

蒲生地区の民泊は、蒲生地区センター(山形県)と蒲生交流館(神奈川県)の2ヶ所で行われ、それぞれの調理班が3班(1班は約12名)に分かれて担当しました。中でも交流館では、婦人会と会食サービスとが初めてチームワークを組むことになり、どれだけ気持ちを一つに出来るかが最大の焦点になりました。それでも講習会をはじめとする研修等を繰り返す中で、皆の気持ちが一つになっていくことを実感しながら、毎日のメニュー内容をカラーコピーで表示したり、野菜の盛り付けの意図、或いは選手たちが求める牛乳等を配膳しながら、選手たちが喜んで「美味しいかった」「残さないで食べたよ」と言ってくれたことに一体感を感じ、益々皆が盛り上がって料理作りに取り組む毎日でした。確かに、朝4時～夜10時までの毎日は、自分の家族をはじめとする、様々な人々の協力によって出来たことではあるけれど、二度と味わうことの出来ない感動的経験であったと言います。これら、蒲生地区の人々による文字通りの「まごころ」に対し、山形県、神奈川県の選手たちは、

様々な感動のメッセージを寄せ書きに残していました。それは、「まごころ込めた歓迎ありがとう！」「温かい歓迎と応援ありがとう、とても感動しました！」「お風呂に送り迎えありがとう！」「蒲生の皆さん天下一品です！」「まごころ私たちに届きました！」「埼玉最高！」「山形の温泉、美味しいものを食べにきてください！」等です。

この様なメッセージを残していく選手たちとの別れは、船出のテープと同じようにバスの窓からいくつものテープと手が振られ、沿道を走りながらの別れがありました。

まさに、「まごころ国体！」でした。



伊藤 あさみの

## ～バリアフリー検証～No.11 「障害者になって見えてきたもの！」

今回は、大里に住んでいる中村さん(66歳)にバリアフリーのお話を伺ってきました。

中村さんは、昨年の1月に左足を大腿部から切断する手術をして、現在車イスの生活を送っています。普通なら、家の中に閉じこもってしまうと考えがちですが、今は街中を歩き、健常者の時には考えなかったことや見えなかったことについて検証しているといいます。

中村さんは、富山県の出身で高校生時代には2度にわたる国体や高校総体に出場するという、まさにサッカー少年の時代を過ごしました。サッカー大好き人間の中村さんは、成人になってからサラリーマン生活の傍ら、創成期のサッカークラブチーム(越谷FC)の育成に参加しながら、埼玉県少年サッカークラブの支部長という重責を担い、また、越谷市スポーツ少年団の本部長を10年にわたって歴任した経緯があります。

この様な、仕事とボランティア活動の激務により、以前から弱かった心臓のバイパス手術をしなければならず、バイパスの手術を行った後に糖尿病による血流の悪化と壊疽が原因で、大腿部を切断する手術に至ったそうです。

スポーツで培った強健な肉体を動かし、仕事にボランティアにと打ち込んできた自分の体が、いつの間にか病魔に襲われ一部を失う事態になろうとは、夢にも思わなかつたことだといいます。

しかし、その計り知れないショックに見舞われたにも関わらず、中村さんは「自分はネアカで前を向いてしか歩けない」とい、様々なことに興味を持って気持ちを分散することや、周りの子供達やお母さん達と会話をすることを楽しみにしています。また、何時も笑顔で車イス(電動車イス)を自由自在にあやつり、街中を歩き健常者の時には考えもしなかつたことや、見えなかつたことを発見しては行政に意見を言ってきました。中村さんの発見とは、①道路と歩道の段差が多いことで、当然そのことは障害者にとって危険であること。②歩道にも急な坂道があり、昇り降りが大変で危険であること。③近所にある歩行者用の信号機が、わずか13秒で切り替わり、障害者や高齢者に危険であること。④市内の飲食店は、バリアフリーになっているところが少ないと。⑤車イスで外出すると、色々な人々が声をかけてくれたり手助けをしてくれることで、人の気持ちの温かさや優しさを感じたことなどです。また、新しく出来た「しらこばと運動公園競技場」にある障害者用スロープが、急だったので働きかけをしていましたところ、先日の国体開催時には改善されていたことに対して大変喜んでいました。この様に、中村さんが見たことや感じたことをすぐに行行動化するエネルギーがあるのは、自分と同じ多くの障害を持った人達と知り合い、交流する中で思いを共有し、一緒に考えてきたからです。時々、近所の子供たちに「どうして足が無いの」と聞かれます。そんな時は、「交通事故にあったんだよ、だから車には気をつけなさい。」と答えているそうです。何故なら、それは車イスの人達が、外に出たとき何時も感じていることだからです。

